

水戸赤十字病院内科後期臨床研修プログラム

1. プログラム名称

水戸赤十字病院内科後期臨床研修プログラム

2. 研修診療科名

神経内科・循環器内科・リウマチ内科・呼吸器内科・消化器内科・腎臓内科・内分泌内科

3. 研修期間

3 年 間

4. 研修について

(1) 目的

代表的な内科疾患について、人命を尊重し、安全で良質な全人的医療を提供できる、質の高い診察能力を身につける。内科診療における知識と技術を学ぶとともに、医師として必要な技術・態度を修得する。

- ・災害医療を理解し、赤十字の医師として、国内で発生する災害や、海外で発生する紛争、自然災害などの救護・救援活動に貢献できる能力を身につける。
- ・初期臨床研修医の指導ができる。
- ・代表的な内科疾患につき自ら検査計画をたてて、正しく診断できる。
- ・代表的な内科疾患につき自ら治療計画をたてて、的確に実施できる。
- ・代表的な内科救急疾患の診療を自ら実践できる。
- ・各専門内科のより多くの症例を経験することにより、内科全般のオールラウンドな知識・技能・態度を身につける。

具体的には循環器科・神経内科・リウマチ科・呼吸器科・消化器科の計5科の専門内科をローテートし、内科疾患に関する診療技術と知識を学ぶ。この間に、診察法、検査、治療法、手技、末期医療、患者・家族関係、医療メンバー、文書記録、診療計画・評価、ターミナルケアなどを修得する。

- ・患者中心の全人的医療チームの一員として実践できる。
- ・赤十字活動・社会に貢献する使命感・責任感を持ち行動する。
- ・認定内科医に必要な症例を経験し、認定内科医資格に足る知識・手技・判断力を身につけ最終的には内科認定医資格を取得する。

(2) 院外活動

- ・国内での救急医療、災害医療への対応ができる。
- ・学会発表・論文発表、治験等の臨床研究活動を経験する。

(3) 赤十字としての特色

- ・救急医療

当院での研修期間中継続して二次救急に対応した救急医療について研修を行うことができる。

- ・災害医療

病院内・外の災害救護訓練等へ積極的に参加し、災害医療実践の準備をする。実際に災害等が発生した場合には、優先して災害医療活動に携わることができるように配慮される。

5. 研修責任者

職名 統括管理監

氏名 小原 克之

6. 診療科の指導体制（神経内科・循環器内科・リウマチ内科・呼吸器内科・消化器内科・腎臓内科・内分泌内科）

(1) 医師数 合計 15 名

常勤 11 名

指導責任者を含む、常勤医師全員が研修の指導にあたる

(2) 指導責任者

主として研修指導にあたる医師の職・氏名

- ・職名 統括管理監（内科、神経内科）

- ・氏名 小原 克之

- ・連絡先 電話番号 029-221-5177

メールアドレス：ka-obara@mito.jrc.or.jp

7. 募集

(1) 募集人数 2～3 名

(2) 募集方法 募集要項参照

8. 取得資格(各学会による認定等)

<関連学会認定研修施設の状況> (2014.03.31 付)

- ◇ 日本内科学会認定医制度教育関連施設
- ◇ 日本神経学会専門医制度教育関連施設
- ◇ 日本呼吸器病学会認定施設
- ◇ 日本呼吸器内視鏡学会専門関連認定施設
- ◇ 日本消化器内視鏡学会認定指導施設

9. 研修の概要

- ・3年間の研修のうち、前半の2年間については、神経内科・循環器内科・リウマチ内科・呼吸器内科・消化器内科をそれぞれ1～2ヶ月間ずつローテーションしながら幅広く研修を行う。
- ・3年間の研修のうち、後半の1年間については、神経内科・循環器内科・リウマチ内科・呼吸器内科・消化器内科から1つを選んで、さらに専門的な研修を行う。
- ・内科一般ならびに救急医療、災害医療等については2年間継続的に研修を行う。
- ・災害医療について
日本赤十字社・支部・病院、又は市町村等にて実施する災害救護訓練等への参加。

災害拠点病院としての役割を理解し責務を果たすための院内体制への積極的な参加。

・ **資格認定試験等への対応について**

内科学会認定内科医資格取得に必要な症例を経験するとともに、学会(内科学会総会、地方会、教育講演会等)への出席を義務づける。その際の学会参加費、出張旅費は当該指導医が必要と認めた際は支給とする。

10. 取得可能な専門医等資格

日本内科学会認定内科専門医：研修を終了し、必要な症例数等の要件を満たせば、本試験を受験できる。

11. 後期研修終了後の進路

病院選考を経て、引き続き当院に勤務し専門医取得を目指すことが可能。

県内外の病院への紹介（専門医取得が出来る医療施設が望ましい）。

大学での研究も可能（大学院への紹介）。